

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第2委員会室
			担当職員 三宅
日 時	平成27年9月18日(金曜日)	開 議	午後 1 時 00 分
		閉 議	午後 2 時 06 分
出席委員	湊 ○小島 菱田 並河 福井 齊藤 藤本 (西口議長)		
出席理事者			
出席事務局	三宅主任		
傍聴者	市民 名	報道関係者 名	議員 名()

会 議 の 概 要

13:00

1 開議（湊委員長あいさつ）

2 事務事業評価選定事業の論点整理

< 湊委員長 >

事務事業評価は、事業の目的や手法、成果、コスト、方向性を視点として、評価を行うものであるが、1事業40分～50分の中で、説明約10分・質疑約10分、その後、委員間での議論を通じて、評価結果をだすということから、時間上の制約もあるため、事前に一定議論の焦点とすべきことを委員間で整理しておく必要がある。論点に沿った質疑、適切な評価ができるよう、これより論点整理を行う。

（１）安全・安心の農産物栽培支援事業経費

[事務局 資料に基づき説明]

< 湊委員長 >

各委員の意見は。

< 藤本委員 >

さくら有機について、製造・販売・消費の採算性や農家にどの程度普及しているのか疑問に感じる。

< 小島副委員長 >

使用の判断は各農家にある。化成肥料ではないので目に見える効果はないが、畜産堆肥として質は良いので、もっと普及されるべきだと思っている。しかし畜産堆肥支援補助金は25年度よりも大きく減少している。組織の減少等が影響しているかもしれないが、全国的にも有機肥料を使用する風潮がある中、使用されていないのはなぜだろうか。

< 福井委員 >

カーボンマイナスに関して、事業目的として温室効果ガスの削減を図ることは悪いことではないが、所管が移ったことにより、当所管でこの目的ではいけないと考えている。何が目的であるのかということ整理すべきである。このままでは、今後の課題とされている新たな利用者の確保につながらないのではないのか。

< 菱田委員 >

有機肥料を利用した安全・安心な農産物の栽培支援を内容とした事業であるが、畜産農家の糞尿等を処理して堆肥を製造していくという中身であり、本来の目的とは少し違うのではないかと感じている。畜産農家は徐々に減少傾向であり、それで販

売数が減少しているのか、それとも売れずに処理できず減っているのか不明である。畜産農家の減少に関しては別に議論していく必要があるが、有機肥料を利用した安全・安心な農産物の栽培支援をどのようにめざすのかという視点に立たないと、いつまでも土づくりセンター設立の経過からみた家畜糞尿の処理等にとらわれてしまう。本来の目的に戻せるよう当事業をみていきたい。

<小島副委員長>

カーボンマイナスプロジェクトに関しては、有機肥料を利用した安全安心の農産物栽培支援というよりも、環境サイドからクルベジとして取り組んでいる事業と捉えている。

<福井委員>

同事業に係る内容は総務費に計上されているが、本事業ではどの部分に関連しているのか。

<菱田委員>

炭素埋設支援事業補助金が関連している。

<齊藤委員>

土づくりセンターの収支はわかるか。

<湊委員長>

今回は本事業費を主眼としたい。

<並河委員>

さくら有機の販売ルートも考える必要がある。

<湊委員長>

色々な意見が出されたが、それらを踏まえた上で、安全安心の農産物生産振興につながる効果的な施策となっているのかを主な論点として、事務事業評価を行いたい。
(了)

(2) 観光PR推進事業経費

[事務局 資料に基づき説明]

<湊委員長>

各委員の意見は。

<福井委員>

スマートフォンアプリはるるぶ特別編集と組み合わせて実施されているものと思われるが、その必要性に納得ができない。

<齊藤委員>

るるぶ委託業者に委託すると高額となる。

<福井委員>

委託先に支払うことに見合った利益が本市にもたらされているのか。

<齊藤委員>

また、成果として観光入込客数は増加しているが、京都市の状況に比べてどうなのかという視点も必要であり、アプリによる成果としての判断は難しい。

<湊委員長>

ダウンロード数に関しても、実際にそれを活用されたのかはわからない。アプリに関してはこの際、十分にチェックしたい。その他、観光PR推進事業としては、特に広域連携に関する施策等も同様に論点としたい。(了)

(3) 安全なわが家の耐震化促進事業経費

[事務局 資料に基づき説明]

< 湊委員長 >

各委員の意見は。

< 齊藤委員 >

実際に耐震改修を行う場合は、補助があったとしても多額の費用負担が伴うことから断念されているケースが多くあると思われる。

< 藤本委員 >

26年度末で耐震化率約80%とは、耐震診断を実施した件数のうちと捉えるべきか、どのような物件を対象とした考え方なのか。

< 湊委員長 >

本事業では、耐震改修の内容・実績や啓発活動についてのチェックを行う中で、補助制度の現状を踏まえ今後の耐震化向上の施策のあり方を考えたい。(了)

3 その他

(1) 審査日程

- ・ 9月24日(木) 10:30 ~ 所管分審査
- ・ 9月25日(金) 10:00 ~ 所管分審査
- ・ 9月28日(月) 10:00 ~ 事務事業評価

[事務局 決算審査日程説明](了)

~ 散会 14:06